



林木育種情報

No.33
2020.3

「センダン、ユリノキ、チャンチン」その先へ

遺伝資源部長 生方 正俊

早生広葉樹に対する期待の高まりとともに国内の様々な機関でこれらを対象とした技術開発が進められています。林木育種センターでは、針葉樹のコウヨウザンについては、平成27年度から本格的に研究を開始し、平成29年度からは、チャンチンとユリノキを対象に一般財団法人日本森林林業振興会の森林林業振興助成事業として、全天連(全国天然木化粧合単板工業組合連合会)、九州大学及び大分県と連携し、国産早生広葉樹の優良種苗の生産技術の開発を進めています。また、センダンに関しては、九州育種場と関西育種場が中心となって、優良な形質を持った遺伝資源を各地から収集し保存しています。

今まで早生樹というと上述のようにセンダン、コウヨウザンを始め、西南日本地域に植栽適地を持つ樹種が多く、東北日本地域に適すると考えられる樹種はほとんどありませんでした。そこで、林木育種センターでは、平成30年度から、林野庁の補助事業として、東北日本地域を生育適地を持つ樹種を対象に「早生樹の増殖技術の高度化と実用化」に取り組んでいます。

この事業には2つの課題があり、東北育種基本区を対象とした課題では、東北育種場と山形県森

林研究研修センターが連携して、ヤナギ類を中心に、採穂木の管理技術や直さし増殖技術の高度化を進めています。また、北海道育種基本区の課題では、北海道育種場と北海道大学が連携して、ドロノキを中心に、採穂台木の管理方法の高度化や遺伝資源保存のための増殖技術の開発に取り組んでいます。ヤナギ類もドロノキもさし木発根性が非常に高いことから、苗木を育成することなく、穂木を植栽地に直接さし付けることが可能です。このような特性から低コスト造林に大きく貢献する樹種としての潜在能力は十分高いといえます。

我が国には約1,500種の樹木が生育するとされ、世界的にも樹木の多様性が高い地域と言われています。日本人は古くから様々な樹種をその特性に応じて上手に利用して生活を向上してきましたが、社会や流通の変化に伴い、現在は国内で使われなくなったものも多くあります。過去に使われたものの現在は全く使われていない樹種や今まで一度も使われたことのない樹種といった遺伝資源を社会のニーズに沿って発掘し、その特性を明らかにして使えるようにすること、「潜在遺伝資源の顕在化」も我々が推進している林木ジーンバンク事業の大きな任務であると考えています。

【紙面紹介】

令和元年度に開発した優良品種 …………… 2～3	奥会津森林生態系保護地域におけるブナ天然林の林分構造と動態 … 6
スギさし木苗における根系形質の評価に関する取り組みについて … 4	生息域外保存を行ってきた絶滅危惧種オガサワラグワの保全の推進 … 7
海外育種事情調査(ソロモン諸島国コロバンガラ島) …… 5	令和元年度林木育種成果発表会を開催 …………… 8



国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所林木育種センター

Forest Tree Breeding Center, Forestry and Forest Products Research Institute